

7.

学術成果の発信

- 1) 学術雑誌『ジェンダー研究』
- 2) プロジェクト報告書
IGS Project Series

1) 学術雑誌『ジェンダー研究』

国内外の執筆者による最新のジェンダー研究の成果を世界に発信



本研究所が編集・発行している査読付きの国際学術雑誌で、特集論文、特別寄稿論文、投稿論文、書評から構成される。巻頭に掲載される特集論文はその年に特に注目されたジェンダー関連のテーマについて世界第1級のジェンダー学研究者が執筆し、外部評価を得た論文で組まれており、学術研究としての寄与も大きい。特別寄稿論文は、編集部によるオリジナル企画として、学際的・国際的なジェンダー研究の成果を世に問う論文を掲載している。投稿論文は、国内外から投稿された日本語もしくは英語の論文で、国際的に活躍する研究者による外部審査を経て採用された質の高い論文である。書評も近年ジェンダー関連分野で注目された著書をジェンダー研究および隣接分野の研究者が評しており、最新のジェンダー研究の動向を示すものである。

■『ジェンダー研究』23号（2020年7月刊行）概要

特集「トランスジェンダーが問うてきたこと」

『ジェンダー研究』23号は2019年12月15日（土）に開催されたIGS国際シンポジウム『トランスジェンダーが問うてきたこと——身体・人種・アイデンティティ』での議論を基に特集を組んだ。また今号では、初めての取り組みとして特集論文を公募にて募り、厳格な審査を通過した2本を招待論文2本とともに掲載した。

まず、巻頭論文『『トランスジェンダー』の旅路（原題：How ‘Transgender’ Travels: Thinking About Gender Variance in a Global Context）』は、本研究分野で最先端を行く Susan Stryker 氏のシンポジウム講演原稿を日本語訳したものである。「トランスジェンダー」が言葉として、また概念としてどのような路を歩んできたのかを辿るもので、編集長による「編集のことば」にあるように多くの読者にこの素晴らしい通史を読んでいただきたく翻訳された。続く The ‘Feminist’ Discourse on Trans Exclusion from Sports (Satoko Itani) は、トランス女性の女子競技参加をめぐる「フェミニスト」言説を分析する。昨今、SNS 上で展開される「フェミニスト」によるトランス女性排除の構造と同様、スポーツにおける「フェミニスト」によるトランス排除の言説は、セクシズムを支える性別二元性と、それらに下支えされる異性愛主義的家父長制というジェンダー秩序を強化していることを本論は明らかにする。公募論文である「トランスジェンダーの普遍化による GID をめぐるアンビヴァレンスの抹消」（山田秀頌）は、GID（性同一性障害）と、その障害としての位置づけをめぐる、トランスジェンダー論との対立構造を、特にアイデンティティとしての GID の位置づけに着目して検証する。もう一つの公募論文、“Exploring the (Cis)Gender Imaginary in the Nordic Region” (france rose hartline) は、ジェンダー平等の観点から先進的とされる北欧5ヶ国の文化がトランスジェンダーの権利にも同様に及ぶのかを検討している。またシンポジウムの原稿をもとにした、特別寄稿論文も掲載した。““Imported” Feminism and “Indigenous” Queerness: From Backlash to Transphobic Feminism in Transnational Japanese Context” (Akiko Shimizu) と、“Troubling Trans: Necropolitics, Trans Bodies, and Genealogies of Governance” (Nael Bhanji) の2本である。トランスジェンダーの身体、アイデンティティ、セクシュアリティ、人種をめぐる複雑な権力関係を論じている。

今号では、IGS の礎を築いた研究者、原ひろ子先生の追悼特集として、2本のエッセイも収録された。

続く一般投稿論文のセクションでは、5本を掲載することができた。いずれも厳正な審査を経て採用されたもので、“The Case of Criminalized Victim Baiq Nuril: A Narrative Case Study of Female Representation in Indonesian Media” (Aprilia Gunawan)、「自民党は女性の就労に関して保守的か——1980年代と2010年代の税・社会保障制度改正における国会発言」（豊福実紀）、「性的マイノリティに対する文部科学省の支援策の論理——性別違和と同性愛の相違点に着目して」（島袋海理）、「ジェンダー化される留学とキャリア」（北野知佳）、「幼稚園教諭賃金の地域格差に見る少子化時代の女性活躍推進のジレンマ——保育者の労働環境におけるジェンダー不平等の実証分析」（小林佳美）の5本となった。

また書評は、中村美亜、萩原久美子、古橋綾、飯尾真貴子、洲崎圭子、船木恵子、福田珠己、小林奈央子、大木直子、高山純子、神谷悠介、日比野由利、巢内尚子、中川まり、小門穂、山本千晶の諸氏によって評された16本の書評を収録した。人文科学・社会科学の幅広いフェミニズム、ジェンダー研究の先端動向を紹介することができたと自負している。

今号も多彩な執筆陣によって最先端のジェンダー研究の知見が提供される1冊となった。

『ジェンダー研究』23号（2020年7月刊行）目次

編集のことば.....申琪榮

巻頭言.....石丸徑一郎

特集：トランスジェンダーが問うてきたこと

「トランスジェンダー」の旅路.....Susan Stryker（翻訳 山田秀頌）

The 'Feminist' Discourse on Trans Exclusion From Sports.....Satoko Itani

トランスジェンダーの普遍化による GID をめぐるアンビヴァレンスの抹消.....山田秀頌

Exploring the (Cis)Gender Imaginary in the Nordic Region.....france rose hartline

特別寄稿：トランスジェンダーが問うてきたこと—身体・人種・アイデンティティ

"Imported" Feminism and "Indigenous" Queerness :

From Backlash to Transphobic Feminism in Transnational Japanese Context.....Akiko Shimizu

Troubling Trans: Necropolitics, Trans Bodies, and Genealogies of Governance.....Nael Bhanji

特別寄稿：原ひろ子先生追悼

原ひろ子先生を偲んで.....館かおる

原ひろ子先生を偲ぶ.....柘植あづみ

投稿論文

The Case of Criminalized Victim Baiq Nuril : A Narrative Case Study of Female Representation in Indonesian Media.....Aprilia Gunawan

自民党は女性の就労に関して保守的か—1980年代と2010年代の税・社会保障制度改正における国会発言.....豊福美紀

性的マイノリティに対する文部科学省による支援策の論理—性別違和と同性愛の相違点に着目して.....島袋海理

ジェンダー化される留学とキャリア.....北野知佳

幼稚園教諭賃金の地域格差に見る少子化時代の女性活躍推進のジレンマ

—保育者の労働環境におけるジェンダー不平等の実証分析.....小林佳美

書評

ゲイル・サラモン著、藤高和輝訳、以文社

『身体を引き受ける——トランスジェンダーと物質性のレトリック』.....中村美亜

石井香江著、ミネルヴァ書房

『電話交換手はなぜ「女の仕事」になったのか——技術とジェンダーの日独比較社会史』.....萩原久美子

吉見義明著、岩波書店

『買春する帝国—日本軍「慰安婦」問題の基底』.....古橋綾

伊藤るり編著、人文書院

『家事労働の国際社会学—ディーセント・ワークを求めて』.....飯尾真貴子

ジョアオ・ビール著、桑島薫・水野友美子訳、みすず書房

『ヴィーター—遺棄された者たちの生』.....洲崎圭子

Giandomenica Becchio, Routledge

A History of Feminist and Gender Economics.....船木恵子

Jennifer L. Johnson and Krista Johnston eds., Demeter Press

Maternal Geographies: Mothering In and Out of Place.....福田珠己

丹羽宣子著、晃洋書房

『〈僧侶らしさ〉と〈女性らしさ〉の宗教社会学—日蓮宗女性僧侶の事例から』.....小林奈央子

前田健太郎著、岩波書店

『女性のいない民主主義』.....大木直子

落合恵美子著、有斐閣選書

『21世紀家族へ—家族の戦後体制の見かた・超えかた（第4版）』.....高山純子

三成美保編著、晃洋書房

『LGBTI の雇用と労働—当事者の困難とその解決方法を考える』.....神谷悠介

村上薫編、アジア経済研究所

『不妊治療の時代の中東—家族をつくる、家族を生きる—』.....日比野由利

Jane Pillinger and Nora Wintour, Agenda Publishing

Collective Bargaining and Gender Equality (The Gendered Economy).....巢内尚子

石井浩監修、佐藤博樹／石井浩編、勁草書房

『出会いと結婚＜格差の連鎖と若者＞』.....中川まり

イレース・テリー著、石田久仁子・井上たか子訳、明石書店

『フランスの同性婚と親子関係—ジェンダー平等と結婚家族の変容』.....小門穂

エリザベス・ブレイク著、久保田裕之監訳、白澤社

『最小の結婚—結婚をめぐる法と道徳』.....山本千晶

編集後記

編集方針・投稿規定

■『ジェンダー研究』23号（2020年7月刊行）編集委員会

編集委員長

申 琪榮 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

編集委員

石井クンツ 昌子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所、基幹研究院人間科学系（2020年3月末まで）
天野 知香 お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系
水野 勲 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
森 義仁 お茶の水女子大学基幹研究院自然・応用科学系
石丸 径一郎 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
大橋 史恵 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
倉光 ミナ子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
板井 広明 お茶の水女子大学ジェンダー研究所（2020年2月から）

学外編集委員

三浦 まり 上智大学法学部
金井 郁 埼玉大学経済学部
小浜 正子 日本大学文理学部
Jan Bardsley ノースカロライナ大学
Karen Ann Shire デュースブルグ・エッセン大学

編集事務局

平野 恵子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
仙波 由加里 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
和田 容子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

2) プロジェクト報告書 IGS Project Series による成果刊行

2020 年度の IGS Project Series 報告書は 3 冊刊行された。No.14『国際シンポジウム「哲学者と皇太子妃：冷戦期日本における自由と愛と民主主義」』、No.18『IGS 国際セミナー（生殖医療）報告書』、No.19『「東アジアにおけるジェンダーと政治」Booklet Series 3 ジェンダー・選挙・女性の政治的代表性：2019 年インドネシア総選挙に関する分析』である。

ウェブ会議システムによるイベント開催の普及に伴い、録画をオンデマンド配信する形での成果発信も多用されるようになってきているが、その一方で、本シリーズのような冊子形態の報告書作成の重要性を再認識している。担当者による丁寧な編集を経ることで、個々のイベントや事業の意義や、その中での議論の論点がより明確化される。また、完成した報告書からは、そこにかかわった研究者やスタッフたちの熱意も伝わってくる。イベント当日の議論を文字に起こし、編集して一冊の冊子にまとめる作業は容易ではないが、このような刊行の意義を念頭に、今後もシリーズ報告書の作成に努めたい。

【2020 年度新刊 3 冊】



IGS Project Series 14

国際シンポジウム

哲学者と皇太子妃：冷戦期日本における自由と愛と民主主義

2021 年 3 月刊

2019 年 5 月 19 日開催シンポジウムの記録（日本語版・英語版）

- ・ジャン・バーズレイ「ロマンスの追憶が映し出す現在：60 年後に振り返る 1959 年皇太子ご成婚」
- ・ジュリア・ブロック「日本におけるボーヴォワール：『第二の性』の反響をたどる ほか



IGS Project Series 18

2020 年度

IGS 国際セミナー（生殖領域）報告書

2021 年 3 月刊

2020 年度開催の生殖領域セミナー 3 回の記録（日本語と英語）

- ・2020 年 7 月 16 日「ケアのインフラストラクチャーとしての臨床データ報告」
- ・2020 年 9 月 9 日「提供精子・提供卵子による家族づくりとドナーリンキング（血縁者探し）」
- ・2020 年 11 月 21 日「月経教育と女性の生涯の健康」



IGS Project Series 19

「東アジアにおけるジェンダーと政治」Booklet Series 3

ジェンダー・選挙・女性の政治的代表性：2019 年インドネシア総選挙に関する分析

2021 年 3 月刊

2020 年 1 月 30 日開催セミナー「Gender and Politics in Indonesia: Analysis of 2019 General Election」報告論文を日本語訳し原文とともに掲載